

特定非営利活動法人学生支援ハウスようこそ 2022年度 事業報告

はじめに

2022年度も当法人が運営するシェアハウスに、児童養護施設等を措置解除となった後に大学・専門学校等に進学する若者を受け入れ、住居・食事の提供を中心とした生活支援、健康や心理面等に関する相談援助を実施した。今年度は、ケアリーパー（社会的養護経験者）の入居だけでなく、家庭・地域で困難な状況に置かれた若者の入居相談や、受け入れを行った。2022年はコロナ禍による自粛生活が3年目を迎え、いっそうの感染予防が求められるなか、引き続き徹底した対策を行った。

修学支援においては、専門学校等との情報共有を図り、学生の課題提出や学外実習の支援を行った。退去を控えた学生に対しては、退去後の支援機関との連絡調整を進め、切れ目のないかわりの構築に努めた。退去者へのアフターケアとして、誕生日にメッセージカードを送るなど、継続的な見守りを実施した。

コロナ禍ではあったものの、オンライン会議システムを積極的に活用し、ハウス会議、スタッフ会議等のコミュニケーションを継続した。

また、多くの会員・支援者からの寄付が寄せられ、新しい家電用品を購入するなどしてハウスの住環境整備や、入居学生の修学支援、就職活動支援に力を入れた。

行政に対しては、進学するケアリーパーへの公的支援の必要性を訴えるための面談を実施し、担当者と意見交換・情報共有を行った。

1. 学生生活支援のためのシェアハウス運営事業（数字は2022年12月末日現在）

① 学生の入居状況

- ・2020年度より継続1名
- ・2021年度より継続1名
- ・2022年4月に入居1名

② スタッフの勤務状況

・毎日、スタッフがハウスに滞在し食事提供・環境整備・健康管理・相談援助等を行った。2022年9月以降、新しく1名の方にハウスアテンダント*（HA）を委嘱し、もうおひとりの方にHAチーフを担っていただいている。また、11月よりハウススタッフとして新たに1名が加わった。

*学生への面談・相談等を通して学生支援の中心を担うスタッフ

- ・ハウスアテンダント：2名（2022年8月まで3名）
- ・スタッフ：13名（そのうち、宿泊対応する理事・事務局員：4名）

③ 食事の提供

- ・毎日、スタッフが、学生に手作りの温かい食事（朝夕食）を提供し、学生の食生活と健康を支えた。
- ・調理ボランティアとして2名の方から協力を得た。

④ コロナ対策に伴うハウス勤務の変更等

- ・日勤勤務を継続し、宿泊と日勤の勤務を、状況に応じて柔軟に選択できる体制を組んだ。
- ・コロナ第7波により感染の危険性が高まるなか、ハウス勤務に入ってくくださったHAおよびスタッフのみなさんに謝意を表すためのギフトカードを支給した（2022年2月、8月）。

⑤ ハウスにおけるコロナ対策

- ・コロナ対策のため衛生用品・抗原検査キットを購入し感染予防対策を徹底した。ハウスへの寄付金を活用して高性能空気清浄機を購入し衛生環境の保持・向上を図った。
- ・陽性者・濃厚接触者が出た場合に備え、ハウス居室の1室を静養室として確保した。陽性者発生時のゾーニングを設定し生活ルールを確認した。
- ・感染状況に応じて常に注意喚起を行い、門限の時間や外泊の方法のきまりを変更し、学生の安全確保に努めた。

⑥ ハウスの環境整備

- ・必要に応じてハウス建物の修繕や室内エアコンの交換、害獣対策を行った。

⑦ 個別面談・ケースカンファレンスの実施

- ・学生一人ひとりに対して個別面談を実施し、生活・学業・進路・心身の健康面の相談に応じた。
- ・学生の元居住施設の職員や学校教員と連携しケースカンファレンスを実施した。

⑧ 通院等の同行支援

- ・コロナ対策のワクチン接種に際して、学生の接種の予約をサポートし、当日は会場へ同行した。
- ・学生の心身の健康に関する相談に応じ、病院への通院に同行した。
- ・必要に応じて銀行に同行し、学生の資金管理を支援した。

⑨ スタッフ会議、ハウスアテンダント（HA）会議の開催

- ・スタッフによる、ハウスの学生支援に関する会議を毎月開催した。スタッフ間で情報を共有し支援の実際を協議した。感染対策のため Zoom を用いて開催している。また、HA による会議も適宜開催し、学生に対する個別支援のあり方を検討した。

⑩ ハウス会議の開催

- ・学生と HA を中心にハウスでの共同生活を円滑かつ豊かにするための「ハウス会議」を継続的に実施した。コロナ感染症への対策を学生同士で話し合い、新しいルールに基づく生活を実践した。

⑪ ハウス行事の開催

- ・感染対策を徹底し、規模を縮小したかたちで、歓迎会、誕生会等のハウス行事を開催した。

⑫ 防災対策

- ・ハウス会議の際に、学生とともにハウスの近隣にある災害時の避難場所を確認し、災害時の行動について情報を共有した。

⑬ 寄付・寄贈品

- ・多数の団体、個人から寄付があった。季節の果物、菓子、日用品、生理用品等を寄贈していただいた。また、新鮮な有機野菜や肉、麺類を定期的に寄贈していただいている。
- ・ご逝去された元会員の配偶者から寄付の申し出があり、ハウスの環境整備のために、洗濯機・冷蔵庫・オープンレンジ・空気清浄機などの電化製品や、就職活動支援のためにリクルートスーツの購入に使用させていただいた。

⑭ 退去者支援（アフターケア）

- ・退去者の誕生日にメッセージを送り、つながりを継続することに努めた。また、必要に応じて連絡を取るなど、退去者への見守り・助言の支援を続けた。

2. 調査研究・広報啓発に関する事業

① 関係団体への情報提供・ミーティング

- 若者支援・子ども支援に関係する個人・団体への情報提供やミーティングを実施し、ようこそ活動を広報するとともに、今後の連携について意見交換を行った。

- ・シェアハウス設立予定者への情報提供

日時：2022年9月26日（土）17:30～18:30

場所：Zoom

参加：島崎葉子氏（SHIMAZAKI HOUSE）、庄司、湯澤、深田

- ・WVJ（ワールド・ビジョン・ジャパン）事業実施ミーティング

日時：2022年11月22日（火）17:00～18:00

場所：Zoom

参加：高橋布美子氏（WVJ）、庄司、中村、湯澤、松井、深田

- ・ハンドブックの制作

2020年開催のHA座談会の記録を中心に、ようこそその7年間を振り返るハンドブック『暮らしの現場から——学生支援ハウスようこそ7年の歩み』の制作に取り組んだ。

② 社会福祉協議会との連携

・ハウス所在地の社会福祉協議会から寄付の申し出を受けた。民間財団への申請書提出にあたっては社会福祉協議会の推薦を得るなど、地元社協との連携を継続している。

③ メールマガジンの発行、ホームページの更新

・会員あてのメールマガジンを4回制作・発行し（16～19号）、ようこそその活動およびハウス運営に関する情報発信を行った。ホームページを随時更新し活動の広報に努めた。

④ 見学・相談の対応

・HPの入居問い合わせフォームを通じて、支援を必要とする若者本人、自治体・児童相談所等の担当者からハウスの利用概要や部屋の空き状況に関する問い合わせが複数寄せられた。

・入居を希望・検討する養育家庭、社会的養護関係者から問い合わせがあり、見学・相談に応じた。

3. 法人に関する事項

① 各種会議の開催

・理事会、事務局会議等を定期的に開催し、法人の安定的な運営に努めた。

② 助成金の活用

以下の団体から助成を受けることができ、助成金を活用した事業を実施した。

- ・東京都 児童養護施設退所者等相談支援体制強化のための ICT 化推進事業

助成額：45万円

- ・毎日新聞東京社会事業団「母の日・父の日募金キャンペーン」

助成額：24万5,000円

- ・ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）新型コロナウイルス対策子ども支援事業

助成額：100万円

③ 行政訪問等

関連団体とともに、東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課を訪問し、ようこそその活動の意義と公的支援の必要性等について説明した。